

取組名称	日本の「明るい農村」を、MOTTAINAIをつかって創造再生させてきた15年の軌跡			団体設立後の経過年数	50年以上
応募取組主体名称	静岡県浜松市 三ヶ日町観光協会	活動地域	静岡県浜松市 浜名区三ヶ日町	応募取組の活動年数	17年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO 任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する 実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

平成28年（2016年）、町内の中小企業、株式会社フードランドは、環境省第4回グッドライフアワードで実行委員会特別賞「環境と順庵」部門賞を受賞しました。これは、同町の特産品である「三ヶ日みかん」の生産時に、選別される販売不適合品（＝摘果）を、同社の食肉加工の技術を用いて皮ごと丸ごとペースト化する独自技術であり、地域ブランドの価値向上と資源循環に貢献するものです。この成功をキーに、同社の中村健二社長は地域全体での環境意識向上を目指し、様々な啓蒙活動を開始しました。

実績の要旨

中村氏の取り組みは、町内の様々な任意団体や町おこし勝手連に影響を与えてSM@PeやBLPといった地域活動団体の立ち上げに繋がりました。また教育分野のローカル・コミュニティ・スクールとして小中学校の総合学習にも影響を与えました。中村氏が会長を務める三ヶ日町観光協会は、これらの団体等のサポートを17年間続け、町内に「捨てるものを価値に変える」というDNAを植え付け、教育や地域連携の教材として、また地場特産品開発に応用され、地域全体の環境意識向上に大きな役割を果たしています。

取組評価の要旨	環境への貢献	今まで、捨てられていた、「みかんの花」「間引きみかん（摘果みかん・青みかん）」「販売不適合になった完熟みかん」を農家から買い上げ、高度付加価値商品として大手食品飲料メーカー等に売る循環が生まれている。
	社会・経済への貢献	完熟した赤く色付いたものだけを「経済商品としての農産品」として見ることに以外に、捨てられるいる（未利用品・未利用部分）にビジネスやサービスにつながる原料・素材・サービスになる「原資」が、見慣れた目の前のミカン畑には既にあったことを町民全体が気づき始めた。
	地域資源の活用	町内の特産品である「三ヶ日みかん」は元より、地域資源としての「浜名湖」にも着目している。なぜなら、みかん畑は、そのまま、浜名湖に繋がっている訳で農業・肥料の使用による水質悪化、土壌の流れ込みによる湖底面の上昇は、湖水の水温上昇に関与していることを知った。
	普及・汎用性	誰にも指示されることなくボランティアで、浜名湖湖岸を掃除する児童生徒。従来農法から、減農薬・無農薬農法に挑戦する農家たち。自然環境を売り物のひとつにしたい町内の観光関連業者。浜名湖の水産品を守り維持しようとする水産業者、これらと常に「環境」という意識を持って交流したいと考える。
	革新・ユニーク性	販売不適合品としてのみかんは、産業廃棄物として残渣を出すジュースではなく、酵素分解という技術で残渣を出さないペーストに。浜名湖のあさり稚貝を食い尽くす害魚を捕獲するだけでなく、魚全体を使い切る魚醬に。みかん農家には、農薬を使わない新しい農法を研究・啓蒙・普及。
	継続性	環境を維持するという考えは、そこに暮らし続ける住民の「DNA（＝遺伝子）」として、親から子へ続くべきである。これが最強の継続性である。

展望の要旨

地域住民による MOTTAINAI を共通言語にしたシビック・プライドを醸成し、「環境と基幹産業が共生する地域」を創出する